

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 鶴見区
学校名 大阪市立鶴見小学校
学校長名 大東 正之

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・鶴見小学校では、第6学年 63名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率においては大阪市より5ポイント、全国より6ポイントほど下回っている。
 算数の平均正答率においては大阪市や全国より2ポイントほど上回っている。
 理科の平均正答率においては大阪市と同等、全国より3ポイント下回っている。
 平均無回答率は、大阪市、全国の平均より低く、粘り強く取り組めている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

(3) 我が国の言語文化に関する事項について、大阪市、全国の平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」についても大阪市・全国の平均と同程度であり、このことから、基本的な知識・技能はある程度習得しており、主体的・対話的な学習の成果が出ていると捉えることができる。しかし、「読むこと」について大阪市・全国の平均を大きく下回っており、文章から想像したり、心情を読み取るような発展的な学習を経験する必要がある。

[算数]

「変化と関係」「データの活用」の2領域において大阪市や全国の平均を大きく上回っている。このことから、2量の関係や基本的なデータを正しく読み取って活用できることが分かる。「図形」領域においては全国の平均より1ポイント下回っている。問題別にみると、基本的な知識・技能は身についているが、発展的な問題において課題が残る。

[理科]

大阪市平均と同じ、全国平均とは3ポイント下回っている。全国の平均と比べるとすべての領域で1～3ポイント下回っている。全体的な底上げが必要だが、特に苦手な領域がないということがわかる。記述式は5ポイント下回っており自分の考えを持つことや、それを表現することに課題が残る。

質問紙調査より

朝食をきちんと食べている児童が多く、友だちとの関わりについての項目では肯定的な回答の割合が高い。昨年度課題であった自分にはよいところがあると思いますかについて肯定的な回答は全国に比べて同程度となっている。しかし、グラフを見てわかるように1の当てはまるを選んだ児童が全国や大阪市の数値と比べてかなり少ない。読書が好きですかの項目は全国を下回っている。

また、国語、算数、理科の学習が分かるの項目において肯定的な意見を答えた児童は全国の平均を上回っているが、国語、算数が好きですかという項目において肯定的な意見を答えた児童は全国平均を下回っている場合が多い。

以上のことから、学習が分かるだけでなく、問題を解決したり学習したりすることが楽しい、やってみたいと思えるような学習の過程を意識した授業を日々実践していくこと、自尊感情を育てていくことが課題であると考える。

今後の取組(アクションプラン)

昨年度に引き続き研究教科を算数とし、「わかった!」「楽しい!」を子どもが感じることのできる算数科学習を研究の主題とし授業研究に取り組んでいる。子どもたちが楽しい、やってみたいと思えるような学習との出合いを工夫し、一人ひとりが自力で問題解決できるように個に応じた学習を進め、深い学びにつながる協働学習の確立に向け取り組んでいく。もちろん、学習を効果的に進めるためには基礎基本の定着が必要であるため、朝の時間を用いた、計算、読書タイムを継続して実践していく。学習の楽しさや自力解決できた喜びを味わうことで学習が楽しい、わかる、好きだと感じる子どもを増やしていきたいと考える。

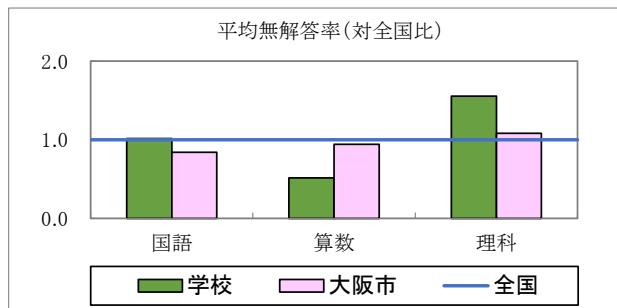
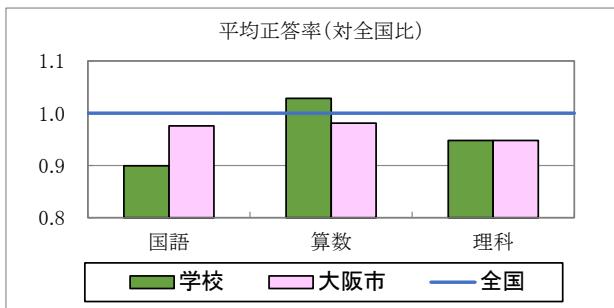
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	59.0	65.0	60.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	5.8	1.8	5.6
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

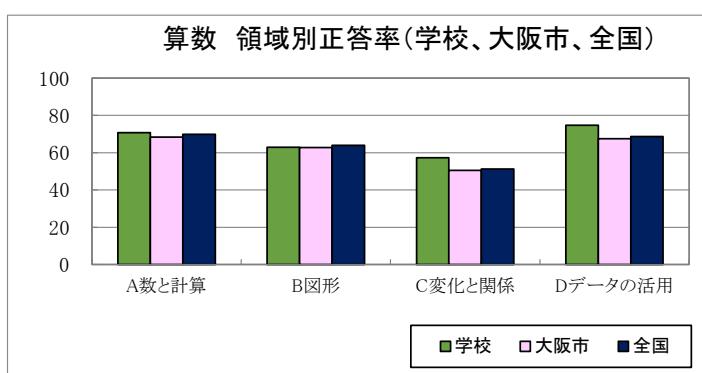
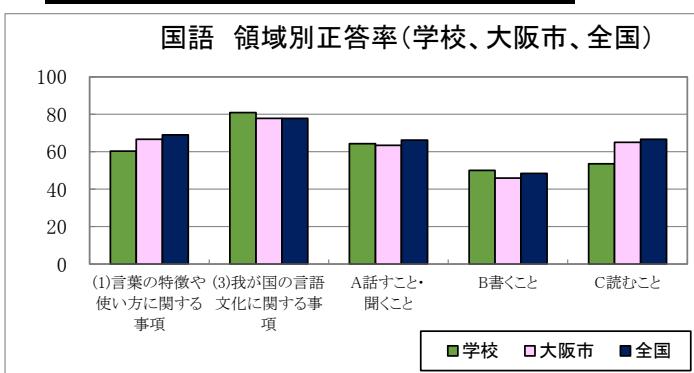


【 国 語 】

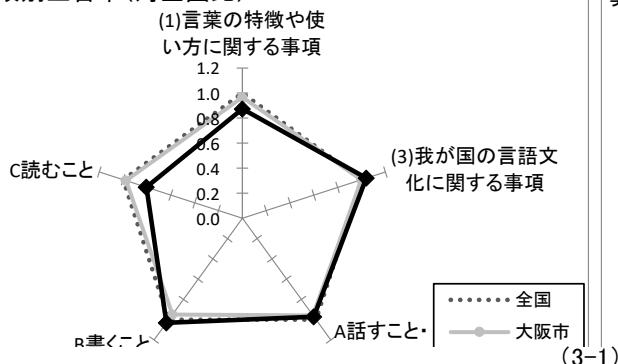
学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	60.3	66.7	69.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	81.0	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	64.3	63.4	66.2
B 書くこと	2	50.0	46.0	48.5
C 読むこと	4	53.6	65.0	66.6

【 算 数 】

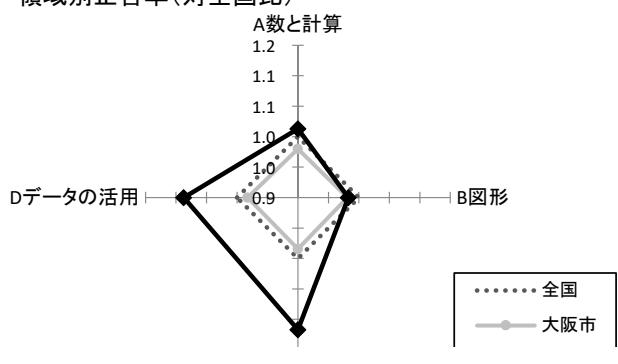
学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	70.7	68.4	69.8
B 図形	4	62.9	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	57.3	50.5	51.3
D データの活用	3	74.7	67.5	68.7



国語 領域別正答率(対全国比)

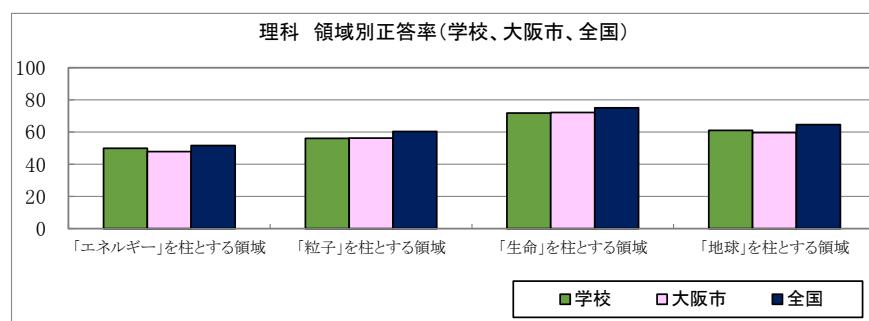


算数 領域別正答率(対全国比)

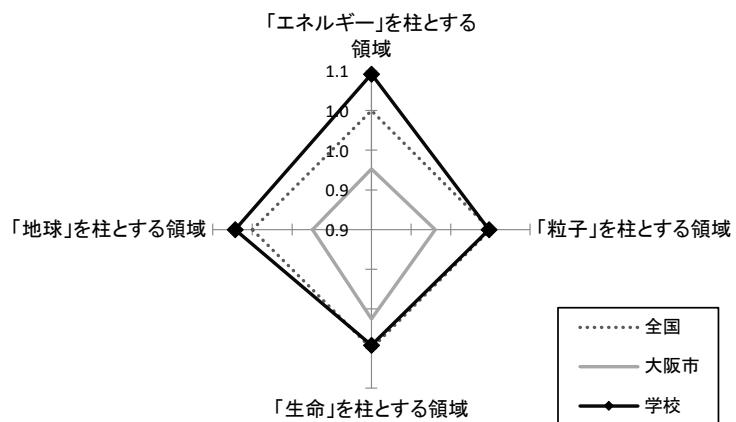


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	50.0	47.8
	「粒子」を 柱とする領域	5	56.1	56.2
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	5	71.9	72.2
	「地球」を 柱とする領域	5	61.0	59.7



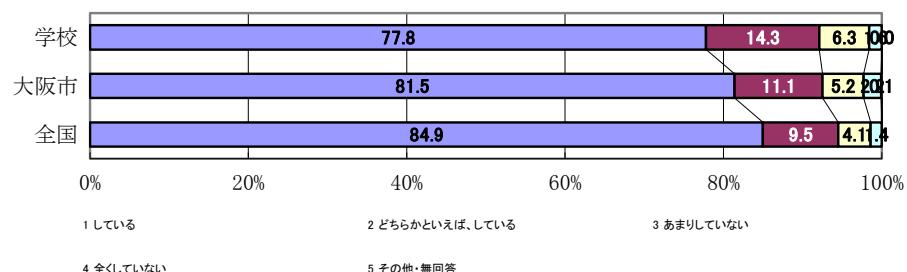
理科 領域別正答率(対全国比)



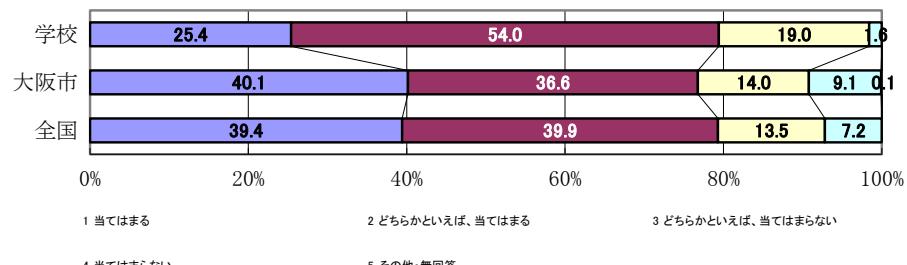
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

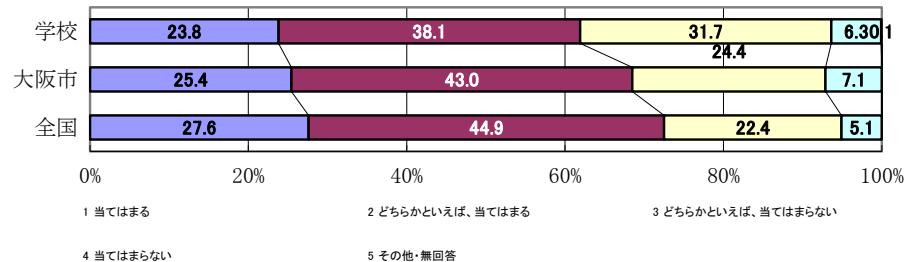
質問番号
質問事項
1
朝食を毎日食べていますか



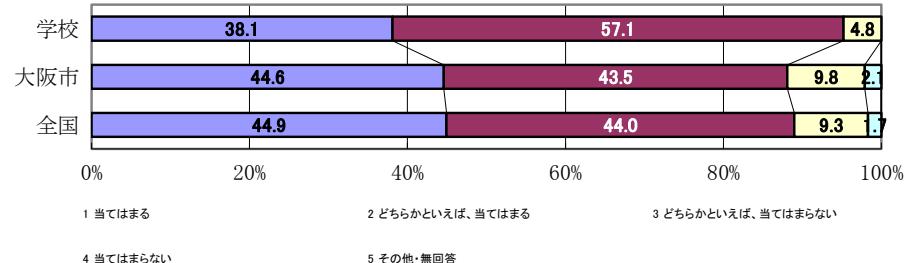
7
自分には、よいところがあると思いますか



11
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか



12
人が困っているときは、進んで助けていますか



16
学校に行くのは楽しいと思いませんか

